

妃たちのオーダーメイド セーヴル フランス宮廷の磁器

—マダム・ポンパドゥール、マリー＝アントワネット、マリー＝ルイズの愛した名窯—

会期 2025年10月25日(土)～2026年2月1日(日)

さまざまな陶磁器に焦点を当てた細見美術館「陶磁器に出会う」シリーズ。10回目となる今回は、陶磁器の最高峰「セーヴル」の登場です。

ヨーロッパ諸国が憧れた東洋の白い磁器。18世紀にマイセン窯が初めて焼成に成功しましたが、真に西洋的といえるスタイルを創り出したのは、フランスのブルボン王朝が設立した王立セーヴル磁器製作所でした。この設立にはポンパドゥール侯爵夫人と国王ルイ15世が深く関わり、贅を尽くした華やかなセーヴル磁器がその後もフランス王国、帝国、共和国によって引き継がれ、今日に至ります。

セーヴル磁器は、当時の流行を取り入れた意匠や、華麗で精緻な絵画表現、発色の繊細さを特徴とします。王侯貴族向けの注文生産であったことから現存数も限られていますが、近年、優れたセーヴル磁器のコレクションが日本でも確立されています。

本展は国王ルイ15世からナポレオン帝政時代の作品を中心に、厳選された国内コレクション約140件の名品で構成されています。ポンパドゥール侯爵夫人や王妃マリー＝アントワネットらが、こよなく愛したセーヴル磁器の魅力をこの機会にぜひご堪能ください。



《青地色絵金彩鳥図皿》 1770年 個人蔵

第1章 | ヴァンセンヌからセーヴルへ — ポンパドゥール侯爵夫人の夢 —

本展は、1740年頃にパリ東方のヴァンセンヌ城に陶工デュポア兄弟が開いたヴァンセンヌ窯の作品にはじまる。1756年にはポンパドゥール侯爵夫人の庇護のもとその居城に近いセーヴルに移転し、セーヴル窯に改称。その3年後には、夫人の献言により、国王ルイ15世が全額出資した王立陶磁製作所となり、第一線で活躍する技術者や芸術家が投入された。その作品は、精緻で優美な絵付と軽やかな色彩、優雅な曲線の器形を特徴とし、繊細華麗で逸楽なロココ美術の特色を示している。



《淡紅地色絵金彩天使図四方皿》1759年 Masa's Collection
側面に透かしを入れた小型のカップ＆ソーサー用トレイ。
このピンク色はポンパドゥール侯爵夫人の時代に使用された色。「ポンパドゥール・ピンク」と称された。裏面に国王のモノグラム「交差するL」が金彩で記されている。



《色絵金彩花文台付皿》1758年 Masa's Collection
正餐のデザートサービスに提供される、シャーベットなどの冷菓用アイスカップを並べるスタンド。緑色のリボンと花をあしらった意匠。1758年にオーストリア女大公マリア・テレジアに贈られたサービス（食器セット）の1つとされる。

第2章 | マリー＝アントワネットの宮廷で — 王立磁器製作所の洗練と萌芽 —

本章で紹介する作品群は、セーヴル窯最大のパトロンであり、愛好家であったという国王ルイ16世の時代の作品である。ルイ16世は、ヴェルサイユ宮殿などの王宮をセーヴル磁器で満たし、王妃マリー＝アントワネットへの贈り物や外交・政治等の贈答にも使った。この頃の製品には、ポンパドゥール侯爵夫人時代の文様などを引き継ぎつつ、王妃がリードした、当時流行の服飾や室内装飾に通ずる意匠の作品が加わった。ポンペイなどの古代遺跡の発見に刺激されて新古典主義が広がると、古代ギリシア・ローマを模範とした均整の取れた荘重な作品も作られた。



《緑地色絵金彩鳥図皿》1779年 Masa's Collection
「鳥の彫刻と鳥と蝶のサービス」という名のついたアルトワ伯爵（のちの国王シャルル10世）のためのサービス。フランスの博物学者・数学者・植物学者であるビュフォンの『鳥類自然誌』から選ばれた鳥たちが忠実に描かれている。皿の裏には珍しく、鳥の名前が明記されている。



《藍地金彩七宝飾カメオ文カップ＆ソーサー》1784年 個人蔵
装飾文様に七宝という宝飾工芸が持ち込まれたのは1770年代後半。カップを彩るのは半透明の白色の真珠や透明感のある翡翠、さらにはルビーを模した盛り上がりのある技法が施されている。1 cmほどの小さな楕円の中に20種のカメオ文が描かれ、贅を尽くしたデザインとなっている。

第3章 | マリー＝ルイズとナポレオンの時代 — 改革とアンピール様式 —

革命により存亡の危機に見舞われたセーヴル窯だが、ヨーロッパ中で高い名声を得ていたため閉鎖は免れた。1800年に就任した所長のアレクサンドル・ブロンニャールはセーヴル窯の近代化に努め、生産効率の良い硬質磁器の生産に大きく舵を切り、歴代の国家元首の好みの大型の壺類や公的傾向の強い正餐用サービス、さらに新古典主義に連なる謹厳なアンピール(帝政)様式を創出した。



《色絵陶板「モナ・リザ」》1810年 個人蔵

陶板に描かれた「磁器画」は、色あせない名画を手元に置く贅沢を実現させた。また写真のない時代に王侯貴族などを描くことで、人物を広く世間に広めることができた。本作を描いたマリー＝ヴィクトワール・ジャコットは、磁器画の肖像画の分野において稀代の画家で、セーヴル窯に貢献した。



《淡褐色地色絵金彩「セロリの葉をした薔薇図」皿》

1821年 個人蔵

王妃マリー＝アントワネットと皇妃ジョゼフィーヌが庇護した花の画家 ピエール＝ジョゼフ・ルドゥーテが出版した『薔薇図譜』をもとに製作した薔薇のサービス（食器一揃い）の1点。この皿にはジョゼフィーヌの薔薇園にあった、失われた稀有な品種の薔薇が描かれている。

第4章 | カップ＆ソーサーでたどるセーヴル

ヴァンセンヌから現代まで — 河原勝洋コレクション —

町田市立博物館所蔵の河原勝洋コレクションは、ヴァンセンヌ窯とセーヴル窯のカップ＆ソーサー約110件からなる作品群で、西洋飲食器文化の萌芽とその展開を一望できる。本展ではコレクションから、選りすぐりのカップ＆ソーサー30件を紹介する。

18世紀中頃、カップ＆ソーサーは実用品であるとともに、趣味や財力を示す美術品、そして社交の場での自己演出に欠かせないアイテムであった。

王侯貴族の庇護のもと贅の限りが尽くされ、最新の流行が盛り込まれたカップ＆ソーサーには、喫茶文化を心ゆくまで楽しんだ人々の所有する喜びが詰め込まれている。



《青地色絵金彩花果文カップ＆ソーサー》

1792年 町田市立博物館蔵(河原勝洋コレクション)

国王ルイ16世はヴェルサイユ南西のランブイエ城を購入し、マリー＝アントワネットのために実験農場と乳製品加工所を設けた。本作は同加工所のために1786年に製作されたサービスと同型で、「エトルリア風」と呼ばれた。

— 関連イベント —

第50回 アートキューブレクチャー「セーヴル —18世紀の王立磁器製作所物語—」

※事前申込制



講師：ジョン・ホワイトヘッド氏

美術史家。専門はフランスの18～19世紀の室内装飾および美術工芸。特に、セーヴル磁器に重点を置く。2011年、セーヴル工房およびセーヴル美術館の依頼により、18世紀セーヴル磁器に関する著作を刊行。2010年、芸術分野への貢献が認められ、フランスの「芸術文化勲章（Ordre des Arts et des Lettres）」オフィシエを受章。

日 時：2025年11月6日(木) 午後2時～3時30分(開場:午後1時30分～)

通 訳：塩谷哲夫氏(ロムドシン代表取締役)

会 場：京都市勧業館 みやこめっせ 大会議室

定 員：100名

参加費：2,200円 展覧会チケット付き(会期中有効)

*詳細は[WEBサイト](#)をご覧ください。



お申込みフォーム

— 展覧会概要 —

*会期・営業日時等を変更する場合があります。最新情報はWEBサイトをご覧ください。

展覧会名称 妃たちのオーダーメイド「セーヴル フランス宮廷の磁器
—マダム・ボンパドゥール、マリー=アントワネット、マリー=ルイーズの愛した名窯—

会 期 2025年10月25日(土)～2026年2月1日(日)

開館時間 午前10時～午後5時

休館日 毎週月曜日(祝日の場合、翌火曜日)、年末年始(2025年12月22日(月)～1月5日(月))

入館料 一般 2,000円(1,800円) 学生 1,500円

※()内は前売料金。※前売券は9月25日(木)から10月24日(金)までプレイガイドで販売

【販売窓口】細見美術館(当日券のみ)、ローソンチケット、チケットぴあ、イープラス、CNプレイガイド

●お得な前売ペアチケット 3,400円

一般 2枚組のお得なチケット。1枚ずつでもご利用いただけます。

販売期間：9月25日(木)～10月24日(金)

販売場所：ローソンチケット、イープラス

主 催 細見美術館 京都新聞
後 援 京都市内博物館施設連絡協議会
在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ
協 力 町田市立博物館 ロムドシン
企画協力 AsHI
会 場 細見美術館 京都市左京区岡崎最勝寺町6-3 <http://www.emuseum.or.jp>



事前予約不要 | 混雑時は入場をお待ちいただく場合があります。



展覧会資料(画像)・取材をご希望の方は、[ホームページリリースページ](#)
もしくは左記QRコード「[資料・ご取材申込み](#)」からお申込みください。

本展連絡先 細見美術館 TEL: 075-752-5555(代) FAX: 075-752-5955(代)
広報担当 大塚 kouhou@emuseum.or.jp

細見美術館